

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 24 日現在

機関番号：47501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2015

課題番号：26780487

研究課題名(和文) 戦争と教科書 朝鮮戦争期における『戦時教材』シリーズを中心に

研究課題名(英文) War and Textbooks: Wartime Educational Material("Jeonsi Gyoje")s during the Korean War

研究代表者

朴 貞蘭 (PARK, JEONGRAN)

大分県立芸術文化短期大学・その他部局等・講師

研究者番号：80567008

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、朝鮮戦争期韓国の『戦時教材』シリーズを発掘したものである。『戦時教材』シリーズは、避難地学生に無償に供給することで国家主義を貫徹させる主要な読本であったが、敵と同士という二分法に頼り、冷戦的反共主義を全面的に拡大させ、これを通してアメリカで代表される自由民主主義陣営に対する過度なる憧れを内面化させる戦略的出版の一つであった。また、大人に比べ比較的特定のイデオロギーに偏りやすい子どもを対象に、戦後国民成形を目標とした国家主導の媒体であったことがわかる。当時、戦時教育が目指していた国家主義の実像と志向を具体的に把握できる有効なテキストがまさに戦時教材である。

研究成果の概要(英文)：This research unearths the wartime educational materials used in Korea during the Korean War. Provided free to students in evacuation sites, wartime educational materials accounted for the majority of the readers designed to embed nationalism. These strategic publications employed a friend-or-foe dichotomy to internalize excessive aspiration toward liberal democracy represented by the United States through a thorough expansion of cold war anti-communism. Furthermore, these materials were a means of national leadership which aimed to mold post-war citizens by targeting children who would be more easily influenced by what was a relatively specific ideology. At the same time, wartime education materials are effective sources for an understanding of the true nature and intentions behind the nationalism sought by education at that time.

研究分野：教育社会学

キーワード：建国期韓国 朝鮮戦争戦時教材 国語科教科書

## 1. 研究開始当初の背景

2013年10月21日、韓国の教育部は、国史編纂委員会の検定審査(2013年8月末)を通過した高等学校『韓国史』教科書の8種に対し、829件の修正・補完を勧告した。教育部は教育専門チームを構成し、全5回にわたり、「表記・表現の誤謬、記述上のアンバランス、国家アイデンティティの歪曲」などを中心に分析を行ったが、勧告を受けた出版社と執筆側は、教育部が提示した修正・補完の勧告事項を反映した「修正対照表」を11月1日まで教育部に提出しなければならない(「教育部、韓国史教科書8種に対し、修正事項829件の通知」『ギョヒョン新聞』2013年10月21日付)。韓国における教科書をめぐる論争は、いわゆる「右傾化」「左傾化」といったイデオロギー論争に集中しているが、エスニシティと国家の同一性を前提に形成されてきた戦後韓国では、絶えず存在するものであったと言える。この「左右」におけるイデオロギー対決は、政権闘争にとどまらず、当然のことながら教育課程や教科書をめぐる論争にまで影響を与え、新しい政権が誕生するたびに際立ってくる。なお、最近では、こうした歴史関連教科書における偏向論争が消耗的であるとし、『韓国史』教科書は、検定ではなく国定にすべきという主張も出てきており、再び歴史科教科書をめぐる論争が予想される(『連合ニュース』2013年10月21日付)。

今回、8種の教科書に共通的に指摘されている箇所は、「解放以後の政府樹立過程」についてであるが、その他に7種の教科書に対しては、北朝鮮関連記述について修正・補完の勧告を行っている。

勧告事項は、主に建国期(1945~1948年)北朝鮮における政治・経済状況に関わる項目であるが、とりわけ、朝鮮戦争関連項目においては、「朝鮮戦争の原因が、まるで南北の両方にあると、学生に(朝鮮戦争に関して)間違った理解と判断をさせる可能性がある」(『世界日報』2013年10月21日付)とするなど、朝鮮戦争の起源や南北分断の責任について、韓国の現政権が徹底した立場を堅持していることも注目すべきである(大統領の朴槿恵氏は、中高校生70%が「朝鮮戦争は「北侵」したこと」と認識していることに対して、こうした歴史歪曲は、絶対に看過できない」とし、「新政府において、必ず正しく修正させるべきである」とした。『朝鮮日報』2013年6月17日付)。

そこで申請者は、こうした韓国における教科書をめぐる「左右」といったイデオロギー論争、言い換えれば、「分断イデオロギー」論争の形成と展開という諸問題を明確させるために、朝鮮戦争期の『戦時教材』シリーズを考察したいと思う。

## 2. 研究の目的

本研究「戦争と教科書 朝鮮戦争期におけ

る『戦時教材』シリーズを中心に」は、現在までほとんど取り上げられることがなかった朝鮮戦争期(1950~1953年)における大韓民国(以下、韓国)の『戦時教材』シリーズ(全11冊)を取り上げ、どのような価値体系とナショナル・アイデンティティを構築していたかについて考察する。なお、戦後の国語科・社会科教科書における朝鮮戦争に関する位置づけの変化を検討した上、この分析結果が、戦後韓国における「分断イデオロギー」の形成及び展開にどのような影響を与えたかを明確にさせることを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究は、朝鮮戦争期(1950~1953年)韓国における『戦時教材』シリーズ(11冊)を分析した。そのために、平成26年度~27年度にわたり、『戦時教材』シリーズ及び教科書・教科書関連資料の収集・分析などの作業を進めた。

平成26年度には初等学校用のシリーズ、平成27年度には中等学校用のシリーズを収集し、それと同時に分析に着手した。朝鮮戦争期における『戦時教材』シリーズは、初等学校用として『戦時生活』(1-1~3-3)が、中等学校用として『戦時読本』(1~3)が、それぞれ3冊ずつ、全12冊が発行された。しかし、『民族を救出する精神』(中等学校用の第3教材)は、刊行されたという記録は存在するが、教材自体は不明のままである。そのため、本研究において分析対象となる『戦時教材』は、全部で11冊である。分析結果は、以下の研究成果において述べる。

## 4. 研究成果

本研究は、現在までほとんど取り上げられなかった朝鮮戦争期(1950~53年)における大韓民国の『戦時教材』シリーズ(全11冊)を発掘した。

### (1) 朝鮮戦争期における教科書

朝鮮戦争期における国語科教科書は、1951年8月に最初に発行され、休戦(1953年7月)を経て1955年9月まで発行が続けられた。特にこの期間に発行された教科書の奥付には、「国際連合韓国再建委員団(UNKRA)」の支援に対する第2代文教部長官である白樂濬の感謝文と署名が載っている。そのために、この教材は、「ウンクラ教科書」という別称が付けられた。感謝文は、以下のとおりである。教科書には、英語と韓国語で書かれている。

この時期の教科書は、2年間(1952年1月~1954年3月)の無償支援を受けてから、一度だけ1954年9月に有償支援を受けて発行されたものである。各発行においては、大きな差異はないものの、部分的には修正が行われていた跡が見られる。この時期の教科書は、前の時期の教材をそのまま採択していた。作

者とタイトルもほぼ同様であるが、それにいくつかの教材を新しく追加しているだけであった。おそらく、予想もしていなかった戦争という現実の中で、教科書を全部改編する時間的・物理的な余裕がなかったと考えられる。

戦時教育が教科書も無く、生活中心とした教育としてスタートした際に、文教部は教科書問題を解決し、戦時生活を指導しようと戦時教材『戦時生活』、『戦時読本』を発行し、国民学校と中学校に提供した。教師のためには「戦時学習指導要領」を作成・提供した。

戦時教育体制という中央集権的な統制を加え、その一環として戦時教材を制作し配布したが、当時、教材の編纂は、崔鉉培を編修局長として、編修官である崔秉七、崔台鎬、洪雄善の3人であった。彼らによって作られた教科書が、戦時の特殊状況を反映した国民学校用の『戦時生活』1、2、3と中学校用の『戦時読本』1、2、3である。この戦時教材は、教科目の区分はせず、それ自体が国語科でありながら同時に社会生活教科書の役割をしたが、主に戦争と反共の正当性を説明し、戦争を支援することに積極的に参加すべきと促す内容であった。初等学校・中等学校用の戦時教材の初版は、朝鮮戦争勃発の1950年6月25日から約9か月後の発行となっている。

ここでは、朝鮮戦争期の戦時教材の中でも、初等学校用の『戦時生活』1~3の中で、現存している『飛行機』、『軍艦』、『我々は必ず勝つ』、『たくましい我が民族』、『我々も戦う』を紹介しておきたい(本報告書においては、詳細な分析は、初等学校用をメインとして取り上げる)。なお、この戦時教材については、現在までに先行研究がほとんどされておらず、発掘の段階である現状もあり、本報告書では明記すべき事項を紹介しておき、詳細な分析などは今後の課題とすることをお断りしておく。

初等学校用の『戦時生活1』の第1集として発行された『飛行機』は、「飛行機1」、「飛行機2」、「飛行機3」という単元構成である。物語には、ヨンイとチョルスという小学生が登場し、飛行機を題材として戦時状況を伝えている。最後の単元においては、UNの他、朝鮮戦争に参戦したUN軍国家の国旗を紹介している(『飛行機』18~22頁)。なお、最後の奥付にある項目と、「指導上注意」について取り上げておく。

#### 『戦時生活1-1 飛行機』

・檀紀4284(1951)年3月20日印刷、3月25日発行。

・価額：避難学生には無料で提供。

・著者及び発行：文教部。

・印刷：合同図書株式会社 代表者 ヤン・イヨン

・指導上注意

この教科書は、飛行機を主題として子どもの生活を発展させようとする趣旨をもって編

纂されたものである。

1. 読解力がついていない1年の学級(とりわけ、戦災地区)においては、絵を見せることを主とし、自由に話ができるようにさせ、教材は、必要に応じて教師が読んであげること。文字を無理やりに教えようとしないこと。

2. 読解力がついた1年生及び2年生の学級においては、その程度に合わせて、国語科教科書として指導すること。

#### 『戦時生活1-3 軍艦』

初等学校用の『戦時生活1』の第3集として発行された『軍艦』は、「軍艦1」、「軍艦2」、「軍艦3」という単元構成である。物語には、ヨンイとチョルスの他、父親や母親が登場しており、国軍の海兵隊が元山に上陸する写真が載っている新聞を取り上げながら、ソウルを奪還したなどの戦時状況を説明している(『軍艦2』12~19頁)。最後の奥付にある項目と「参考」は、以下のとおりである。なお、奥付の「参考」には、判読不明な箇所があるが、ここでは「××」と表記する(以下、同様)。

・檀紀4284(1951)年3月20日印刷、3月25日発行。

・価額：330ウォン。道庁から学校までの運賃は別に徴収。

・著者及び発行：文教部。

・印刷：合同図書株式会社 代表者 ヤン・イヨン

・参考

この教科書の指導上注意は、第1集の要領と同様だ。

この本は、戦時版であるため、××きちんとできていない××次のように製本××。

1. ××。

2. 46版に合う××。

#### 『戦時生活2-2 我々は必ず勝つ』

初等学校用の『戦時生活2』の第2集として発行された『我々は必ず勝つ』は、「1. 自由を探して」、「2. UNは、我々を助ける」という二つの単元構成である。「自由を探して」は、登場人物のミヨンギルが、大邱の叔父の所へ避難する話がメインとなっている。小単元としては、「汽車で」、「大邱で」、「釜山で」の順で避難生活が続られており、北朝鮮の「平壤」からの避難民であるインスンなども登場している。「春の便り」では、ミヨンギルの母親が新聞を読みながら、国軍の進出状況を伝えている。「戦時勉強」という小単元においては、釜山にある国民学校が開校し、学生の実態を説明した。「UNは、我々を助ける」(21~30頁)は、「世界の警察」、「二つの国」、「大韓は輝く」の3つの小単元構成である。ここでは「UNは、世界の様々な国家が、お互いに仲良くなるため、すべての人々が楽しく過ごせるようにするために作られた機関」と説明し、民主主義国家と共産主義国家の二項対立について明確にして

いる。なお、最後の奥付にある項目と「参考」は、以下のとおりである。

・檀紀 4284 (1951) 年 3 月 20 日印刷、3 月 25 日発行。

・価額：330 ウォン。道庁から学校までの運賃は別に徴収。

・著者及び発行：文教部。

・印刷：合同図書株式会社 代表者 ヤン・イヨン

・参考

この教科書の指導上注意は、第 1 集の要領と同様だ。

この本は、戦時版であるため、××きちんとできていない ××次のように製本××。

1. 針××。

2. 46 版に××。

### 『戦時生活 2-3 たくましい我が民族』

初等学校用の『戦時生活 2』の第 3 集として発行された『たくましい我が民族』は、「1. 戦闘機」、「2. 勇敢なる信号兵」、「3. 勝つ道」、「4. 私たちの力で」という四つの単元構成である。「勇敢なる信号兵」(3~13 頁)では、アメリカ海兵隊が原州の北側にある 514 高地を奪還する作戦を紹介し、北朝鮮から来た金一等兵の功労を称えている。「勝つ道」(14~23 頁)では、戦争に勝つためには、子どもから大人まで率先して軍隊のお仕事(道を綺麗にするなど)を手伝うべきなどを訴えている。「私たちの力で」(23~30 頁)では、クラス会議において、「私たちの力で、1. スギルを助け、安心して勉強できるようにする。2. 国軍と第 2 国民兵として出た人々の家を助けること。3. 道を直してあげること。を決定し、お仕事をするのに、分団は、6 つに分け分団長と相談し、互いにお仕事を分け合うことにする。」など具体的に実践すべき項目を挙げている。最後の奥付にある項目は、以下のとおりである。

・檀紀 4284 (1951) 年 3 月 20 日印刷、3 月 25 日発行。

・価額：避難学生には無料で提供。

・著者及び発行：文教部。

・印刷：教学図書株式会社 代表者 チェ・サンユン

・参考

この教科書の指導上注意は、第 1 集の『飛行機』××。

この本は、戦時版であるため、××きちんとできていない ××次のように製本××。

1. 針×

2. 46 版に合うように、紙を切りそろえる。

### 『戦時生活 3-3 我々も戦う』

初等学校用の『戦時生活 3』の第 3 集として発行された『我々も戦う』は、「大韓の少年」というハン・インヒョンの詩から始まり、少国民としての戦時生活を綴った「ヨンギルの戦う日記」、最後の「高潔なる犠牲」

というユ・チファンの詩で締めくくっている。なお、この教材の奥付には、指導用の注意や参考などの項目はなく、以下の項目のみである。

・檀紀 4284 (1951) 年 3 月 1 日印刷、3 月 6 日発行。

・価額：避難学生には無料で提供。

・著者及び発行：文教部。

・印刷：教学図書株式会社 代表者 チェ・サンユン

分析した事項をまとめてみると、以下の戦時教材の特徴がわかってくる。

初等学校用の『戦時生活』シリーズは、戦時体制と関連のあるものが主である。戦闘遂行手段である飛行機、タンク、軍艦の種類・役割に関する軍事知識をわかりやすく説明、ナラティブ形式を通して、光復と大韓民国政府の樹立、戦争勃発、避難と北進などを説明、戦時体制の理念を説明的テキストや日記形式として構成されていた。このように、避難地の子どもが学校や家庭において、実際経験した内容をナラティブ形式として構成し、自然に戦時「生活指導」を遂行するようにした意図があった。中等学校用の『戦時読本』シリーズは、自由民主主義体制の優越性の確認、UN に対する理解と共助の必要性、反共を超え滅共必勝の信念を検知する戦時生活の実践を強調しており、国策理念を伝える目的意識的な側面が強かったといえる。

なお、朝鮮戦争は「思想戦」とも呼ばれていたこともあり、後方社会において民間人(国民)に対する思想訓練が必須とされたため、『戦時教材』は、発行趣旨を効果的に指導する方法に関する考慮が必要とされた。この『戦時教材』を通して戦時国民のアイデンティティを確立させようとしたことがうかがえる。

### (2) その他の朝鮮戦争期における特徴

戦時中の用紙の事情こそ、教科用図書の供給にもっとも深刻な問題であった。この問題を少しでも解決できたのは、1951 年 7 月ユネスコから 10 万ドルのほか、国際連合韓国再建委員団から 13 万 5 千ドルの支援金を受け、またサンフランシスコ市から 1 千トンの紙を支援されてからのことである。ペク・ナクジュン長官が、韓国の戦時教育事情をアメリカ人に知らせた訪米外交として得られた成果であった。また、自由アジア委員会からも「数百万冊の教科書を作る紙」を寄贈されたこともある。

「ウンクラ」などで援助された用紙は、1951 年 12 月から終戦直後まで、国定教科書の発行社に配当され、一部の検定図書の発行社にも配当された。それで、実業系専門教科書側も作ることができ、専門図書発行のための用紙支援も可能となった。これにより、当時の教科書には、韓国の教科書史において最初の

事例として、「用紙寄贈に対する感謝文」を掲載した。この文は、教科書の最初のところか、版權面の upper 段に、ハングルと英文を共に掲載した。

約3年間にわたった戦争期間は、政府樹立直後から推進してきた教育設計を維持するため、様々な方法を模索したが、力不足になるしかなかったが、「戦時教材」を発行し、国定教科書を最大限に回復させようとした文教部の努力がうかがえる。とりわけ、「戦時教材」は、韓国の教科書史において、米軍政期に発行された一連の臨時教材とともに、もっとも重要な意味を持つ。

戦時教材以外に、1951～1953年の国定教科書の発行実態をみれば、教科書発行の実態は、前半・後半学期の実績を合算したことである。当時は、中・高等学校の学制をそれぞれ3年に改定する一方、9月新学制を廃止し、3月新学期制に変えたところであった。戦時下であったにもかかわらず、国民学校の教科書は、ほぼ全量が発行されたが、中・高等学校の場合は、もっとも難しい局面であったことがわかる。とりわけ、中・高等学校の場合、朝鮮戦争が勃発する前は、215種にいたる実業専門教科書を発行するという計画であったが、戦争勃発の3年間の実績は、61種(普通教科書の教科書を含めて)にとどまった。この状態から解除されたのは、1955学年度からであったが、戦時下において、釜山に「避難工場」を開設していた大韓教科書株式会社によって、20種程度維持されていたという。

朝鮮半島に2つの国民国家が樹立された後に内戦のような性格を持って展開された朝鮮戦争(1950年6月25日～1953年7月27日)は、国民形成と国内平定がその目的とされる戦争であった。戦争を前後してなされた国民的統合を可能にしたもっとも重要な社会的な規制は、義務教育制度と「国民皆兵制度」の定着である。これらの制度が決定されたのは朝鮮戦争前であったが、実際に施行されたのは戦時中や戦争後である。このような点からも朝鮮戦争は、国民形成戦争としての性格を持っていると言われている。義務教育は、1949年12月31日付で新教育法が公布され、1950年6月1日付で全面的に施行される予定であったが、戦争によりすぐに実行できなくなった。戦争終結の直後、1959年までの就学率を98%まで上げさせる目標であった「義務教育完成6カ年計画」(1954～59年)が立案され、1954年の就学率が82.5%、1959年96.4%に至るなど義務教育制度は次第に定着段階に入る。学校や軍隊は、一種の新しい「通過儀礼」として作用しながら、「国民」としてのアイデンティティを確立させる核心的な制度として作用した。彼らは、国民学生と国民兵となり、国家は冷戦反共主義という国家理念を安定的かつ体系的に教育し、国民的価値観の伝道師としての役割を果たすことになる。

### (3) まとめ

戦時教材シリーズは、避難地の学生に無償に供給することで国家主義を貫徹させる主要な読本であったが、敵と本土という二分法に頼り、冷戦的反共主義を全面的に拡大し、これを通してアメリカで代表される自由民主主義陣営に対する過度なる恐れを内面化させる戦略的出版の一つであった。また、戦争体験や恐怖の記憶とは別に、大人に比べ比較的特定なイデオロギーに偏りやすい子どもを対象に、戦後国民成形を目標とした国家主導の媒体であったことがわかる。当時、戦時教育が目指していた国家主義の実像と志向を具体的に把握できる有効なテキストがまさに戦時教材である。

### (4) 今後の課題

当初目標としていた戦後韓国における国語科・社会科教科書における朝鮮戦争に関する位置づけの変化などの分析が、本研究実行期間において行うことができなかったため、今後の課題としておきたい。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### 〔雑誌論文〕(計 1 件)

「建国期韓国における教科書研究 国語科教科書・戦時教材を中心に」『大分県立芸術文化短期大学 研究紀要』第52巻、大分県立芸術文化短期大学、査読無、2015年、pp149-182

#### 〔学会発表〕(計 2 件)

「朝鮮戦争期における戦時教材研究 初等学校の『戦時生活』シリーズを中心に」日本比較教育学会第50回全国大会、2014年7月12日、於・名古屋大学。

「朝鮮戦争期における戦時教材研究 中等学校の『戦時生活』シリーズを中心に」多言語社会研究会、2015年10月24日、於・東京外国語大学本郷サテライト

#### 〔図書〕(計 0 件)

#### 〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等  
なし

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

朴 貞蘭 (PARK, Jeongran)  
大分県立芸術文化短期大学・国際総合学  
科・講師  
研究者番号：80567008

##### (2) 研究分担者

なし

##### (3) 連携研究者

なし